第４回 活動レポート

まちなか再生ミーティング

■ 開催概要

開催場所：宇部市文化会館
開催日時：平成 27 年 12 月 17 日（木）18 時 ～ 20 時
参加者数：32 名

■ オブザーバー

久保田 后子（宇部市長）
栗原 清隆（宇部市地方創生推進協議会会長）
鵠　心治（山口大学工学部教授）

１．はじめに

■ 開会

オブザーバーの久保田市長、栗原地方創生推進協議会会長より、各回の協議を経て、活動のイメージが具体的に固まってきた中で、活動拠点の実現に向けたさらなる実践的なアイデアの提案を期待する旨の挨拶がありました。

■ 第３回活動のまとめ

第３回で協議された「若者の活動拠点施設の仕様」、「活動」、「施設の運営主体と利用者」という３つのテーマに関する参加者の意見が取りまとめられ、報告されました。

《「若者の活動拠点の仕様、活動内容」、「運営主体」、「利用者」》

どのグループも、運営主体は学生や地域住民のほかにまちづくりやビジネスの専門家の参画を提案されていました。

グループ１
まちなかでの学習機能を有する施設が提案され、学生、地域住民、起業を志す市民に向けた活動が提案されました。

グループ２
宇部市のまちなかの情報や文化・歴史を発信する施設が提案され、そこでのボランティア活動を起業へと導くという活動が提案されました。

グループ３
カフェを中心的機能として、付随する活動をものづくり、ステージ発表、スポーツ、図書、立寄り待合の５つの機能に分類し、それぞれ運営管理者と利用者が提案されました。

グループ４
「キッズ」、「ミーティング」、「発表」、「カフェ」、「広場」の５つの機能を想定して、それぞれ保育に医療、イベント企画やまちなかミーティング、授業やサークル活動成果の発表等の使い方が提案されました。

２．中心市街地の将来像と持続可能な活動のために

参加者は５年後、１０年後の中心市街地はどうなる？どうなってほしいか？という「中心市街地の将来像」、将来像の実現に向けた活動を持続的に行うために、「活動拠点（若者未来センター）に必要な人材･組織、地域（住民）との関わり方、支援」の２つのテーマについて話し合い、その内容をグループごとに発表してもらいました。

グループ１

《中心市街地の将来像》

５年後	・宇部ならではのイベントの開催とそれを目的とした来街者の増加 ・人が集まるイベントを定期的に開催する ・商店街の方々が社会人や学生というつながる町 ・文化的な活動に興味をもつ人（受賞者など）の増加 ・専門的な技能を持つ人材の発現 ・大学生の就職活動で職場体験が出来る機会が増える ・定期的に講義や演習がまちなかで開催
１０年後	・起業、定住人口の増加 ・現空き店舗が個性的な店に改装されて並ぶ街 ・有名な文化人の住むまちになる ・文化人の講義やイベントを目的にたくさんの人が集まる ・学生がまちに提案できるようになる

《地域との関わり方》
・教育・指導・レクチャー、活動周知、
・イベント開催時の連携（開催地の住民、子供会）
・宇部未来会議やロータリークラブ等の社会人サークルとの連携
・商店街や起業家が若者未来センターで模擬出店、センターが情報発信・宣伝

《必要な人材・組織》
文化・教養：文化人、趣味（教養）を教える講師、職人
民間企業：市が委託した団体、協会、イベント運営会社、商店街の人々
学生：イベントを企画・開催する学生

《必要な支援・補助》
理解、人出、運営に関する専門的なアドバイスとチェック、情報発信、PR、助成金、協賛・協力

グループ２

《中心市街地の将来像》

現在	・文化イベントがたくさんある ・演劇・アートに関わる人材がいる ・フラットに参加、入れる場所がない ・学生（若者）に情報が届いていない ・ビジネスに繋がっていない ・知り合いの幅がせまい
将来（文化都市、オタクの聖地）	・インターネット（情報発信）能力の向上 ・横の繋がりによる連盟（拠点）づくり ・子どもが集まる仕組み（カルチャーセンター） ・オタク、ファンがまちづくりを広げる仕掛け人になる ・イベント参加者が増える（他から来た人を巻き込む） ・新しい発見をできる交流の場になる

《地域との関わり方》
寄りやすさ：暇な人がぶらりと遊びに来る、誰でも参加できる低い敷居
情報発信：地域に向けて発表、イベントの実施、地域・学生への情報発信
その他：子供会や校区との関わる、クーポン、ポイントでのつながり

《必要な人材・組織》
専門家：マネージャー、コーディネーター
オタク：オンリーワンのひと、文化を伝える人（アーティスト等）
横の繋がりを持つ組織：協議会、各分野の代表者による横断的組織
その他：学生、市民（産官学）、宇部に住み続ける人

《必要な支援・補助》
マスコミを使ったPR、宣伝の場の提供、広報、理解、特区制の導入、企業のメセナ、CSR

グループ３

《中心市街地の将来像》

将来	人が来る理由を増やし、中心市街地の（定住・交流人口）を増やす
	・目的地でありつつ、スタート地点になる街 ・デイサービス、子育て支援の充実による老若男女の活性化 ・授業の一部を中心市街地で行い、学生を誘導する ・就職できる場づくり ・定住人口、就業者人口の増加

《地域との関わり方》

教育：“教育のまち”としての認識を定着させる
交流：地元野菜を使うことで交流を深める、地域が学生バイトの受け皿となる

《必要な人材・組織》

教育:教育（知育）施設、教育者、学ぶ人、学生、経営者、大学生、知識人、アクティブシニア
教育組織：大学、企業
カフェ：働く人、本を提供する人、有名フランチャイズ
介護・医療関係組織：介護施設、高齢者施設、福祉施設、保育所、及びその関連企業

《必要な支援・補助》

教育：大学からの教育支援、学生、その他サークルによる人的支援
行政：キャンパスとサテライトオフィスとを繋ぐ市営バス、交通支援、昼食の提供、勉強場所、自由な発想と活動を許容するバックアップ

グループ ４

《中心市街地の将来像》

５年後	・イベント、発表、飲食など、昼間に若者で賑わう（活躍できる） ・学生が中心市街地に集まる ・学生や若い世代が気軽に集まれる場所ができる（第１世代） ・拠点施設がさまざまな世代の活動の場所となる ・カフェを中心に施設や人が集まる ・サークルに参加する学生が増え、まちづくり活動に繋がる ・銀天街の大規模改修が計画され大型商業施設が誘致
１０年後	・歩行者の増加、イベント増加 ・子どもの預かり所、図書館分室の整備 ・若い世代が子どもや友人を連れて都会からまちに戻ってくる ・施設周辺に新たな施設の整備 ・施設のにぎわいが周辺に広がり、空き家の活用や歩行者が増加 ・市民が主体となった施設運営 ・まちなか活動から起業に展開 ・学生の就業場所が増加

《地域との関わり方》

情報発信：まちに対してオープン施設運営
イベント：地域が協力してくれる関係づくり、サポーターとしての参加登録
情報共有：呼びかけに応じて地域住民が集まる、活動場所の提供
会員割引：サポーター、会員への割引サービス

《必要な人材・組織》

意欲・実行力：まちづくりに意欲的な人、イベントの企画、運営者
資格・専門家：保育士、資格（医療、保育等）を取りたての大学生
宇部人：宇部市に居住経験がある人、地元地権者
大学：大学の研究室（学生の育成と専門知識）
利用者：施設利用者、広報担当

《必要な支援・補助》

資金：活動資金の援助、資産・私有地の提供、市民からの基金（施設やイベントの管理運営として利用）
人材：人材、相談員、人材（学生、教員、行政）のイベント時の援助
情報発信：広報、メディア活動
専門知識：運営やまちづくりに関わる専門知識の提供、不正管理体制・技術

オブザーバーのコメント

《講　評１》

中心市街地の将来像　５年後、１０年後の中心市街地

久保田市長：皆さんの宇部市のまちをこうしたい、こうなってほしいというお話を聞いて、センターが担うべき役割が明確になってきたかと思います。宇部市の個性を活かした拠点づくりから新たな宇部市の魅力の創出につなげ、５年後、まちなかに活気を生み出し、中長期的に居住者の増加に繋がるようなビジョンが重要であると感じました。

栗原　会長：芸術のまち、オタク文化のまちといったまちなかの個性が生まれ、育まれることが重要であると思います。その中で、若者や就業者が如何に長く活躍できるかが皆さんの考えた中心市街地の将来像を実現するために必要なことだと思います。まちの価値を高め、まちなかでビジネスチャンスを創出し、若者の就業機会を生み出すといったアクションをセンターが担うことが期待されます。

《講　評２》

活動拠点（若者未来センター）に必要な人材･組織、地域（住民）との関わり方､支援

久保田市長：全ての機能がはじめから揃ったまちである必要はないと考えています。例えばオーストリアのリンツがリノベーションで成功したまちであるように、まちの個性を実現できるセンターの取組みが求められます。そのような活動を基にセンターを拠点として、地域との連携体制の構築し、若者をはじめとする市民が生きがいを感じられるまちを育て、行政がその活動を支援するプロセスの形成が必要です。

鵠　教　授：人材×組織×地域＋支援＝まちづくりの方程式が重要です。そのためには最初のプロジェクトは必ず成功させる必要があります。まちづくりに携わる人材、有能な地元の人材を発見すること、育てること、徐々に活動に関わる市民を巻き込み思い描くまちのイメージを実現する役割をセンターが担う必要があります。

栗原　会長：まちづくりのターゲットに合わせて分節化されたセンターの機能と活動が重要です。対外的に市民以外にも注目されるまち、目的がなくまちを訪れた人でも集まれるまちづくり、例えば、バックパッカーのための施設づくりなど、オンリーワンとして宇部市がイメージされるようなブランドづくりを期待します。

《総　評》久保田宇部市長

全４回のミーティングを通して、拠点整備に向けたイメージや方針をより具体的なものにすることが出来ました。スピード感を持って早急に拠点をつくるためにも、このミーティングの続編を次年度以降も開催し、名称も含めたセンターの具体的な内容について協議できればと思います。合わせて、拠点施設を整備する前段階として、市民の皆様が集い憩える小さな場づくりを行うことも重要であると考えています。賑わいのある宇部市のまちづくりを今後も皆さまとともに実現していきたいと思います。

問い合わせ：宇部市総合政策部まちづくり総合推進室 Tel.34-8896
制作：山口大学都市計画・都市設計研究室、発行：宇部市